

年が明けて業界の雰囲気も昨年とは違い、具体的な動きがあつたという間に広がってきた。「生産性の向上」と「担い手確保育成」の二つである。ここ数年の業界の動きは激しい。恒例となつた1月5日の業界11団体の新春賀詞交歓会。石井啓一国土交通相の年頭のあいさつを要約すれば、昨年の「生産性革命」宣言をさらに進めた「生産性革命前進の年」と「建設業における働き方改革」だった。この二つの政策に対する国土交通行政に向けた強い意気込みが伝わってきた。事業量の確保に加えて労働環境の

群馬県建設業協会会長 青柳 剛



特別寄稿

改善に正面から向き合えば業界地図はどんどん変わっていく。大手と中小、都市と地方、地域別、業種間など業界環境の変化を格差で論ずることはたやすい。ここ数年の業界の変わりようをもう少し掘り下げて考えて見よう。

格差といえば建設専門紙を見ていると面白い。同じ日の1面と裏返したページで全く違った視点の記事が書かれている日もある。毎日読んでいる建設業界の人にとっては当たり前の感覚になつてはいるのだが、一般紙にはありえない。業界以外の人が読めば「本当のところはどうなつていんだらう?」「建設業界が不況なのか、景気がいいのかさへ分からなくなつてくる。ここ数年月間の見出しを拾い上げてみるだけでも、

「6割が受注高増加」「粗念」など、地域建設業者の利益率10%越え過半数」深刻さを伝える記事は相変らずだ。「活況背景に選別受注」を「工事単体繰越高2兆円 大手と中小、地域間格差超え」「設計施工一括特命などを二極化、まだら模受注」大型化の波など、様々で括弧も受注二大受注の好調の大手主要ゼネコンの好調の話題には事欠かない。数年 各県単位に掘り下げてみる

「6割が受注高増加」「粗念」など、地域建設業者の利益率10%越え過半数」深刻さを伝える記事は相変らずだ。「活況背景に選別受注」を「工事単体繰越高2兆円 大手と中小、地域間格差超え」「設計施工一括特命などを二極化、まだら模受注」大型化の波など、様々で括弧も受注二大受注の好調の大手主要ゼネコンの好調の話題には事欠かない。数年 各県単位に掘り下げてみる

「6割が受注高増加」「粗念」など、地域建設業者の利益率10%越え過半数」深刻さを伝える記事は相変らずだ。「活況背景に選別受注」を「工事単体繰越高2兆円 大手と中小、地域間格差超え」「設計施工一括特命などを二極化、まだら模受注」大型化の波など、様々で括弧も受注二大受注の好調の大手主要ゼネコンの好調の話題には事欠かない。数年 各県単位に掘り下げてみる

「6割が受注高増加」「粗念」など、地域建設業者の利益率10%越え過半数」深刻さを伝える記事は相変らずだ。「活況背景に選別受注」を「工事単体繰越高2兆円 大手と中小、地域間格差超え」「設計施工一括特命などを二極化、まだら模受注」大型化の波など、様々で括弧も受注二大受注の好調の大手主要ゼネコンの好調の話題には事欠かない。数年 各県単位に掘り下げてみる

「6割が受注高増加」「粗念」など、地域建設業者の利益率10%越え過半数」深刻さを伝える記事は相変らずだ。「活況背景に選別受注」を「工事単体繰越高2兆円 大手と中小、地域間格差超え」「設計施工一括特命などを二極化、まだら模受注」大型化の波など、様々で括弧も受注二大受注の好調の大手主要ゼネコンの好調の話題には事欠かない。数年 各県単位に掘り下げてみる

「ローカルトップゼネコン」と「限界企業」

前までずらりと並んでいたと違った読み取り方も出てきた。身の回りの県を見てもみれば分かりやすい。大手と中小の全国版の格差が、では地方の工事減少深刻」と中小の全国版の格差が、に始まり、「地域間格差のそのまま各県単位で縮図と解消」「工事ごとに利益確なつて表れている。そして保を」「限界工事量割れ地いつの間にか地方のトップエリアを限定して見てみてこの秋には具体的に運用開とか。